

広報レポーターが気づいたよりの魅力

住よさを  
実感

## 人権教室 ～パラスポーツ「ボッチャ」でつなぐ思いやりの輪～



広報レポーター

宇野 建夫 (小倉台)

夏休みも終わって間もなく「人権教室でのボッチャ体験会」が木刈小学校であると聞き、取材に伺いました。体育館には4年生の児童がグループに分かれ、コーチの指導の下、赤と青のボールを交互に投げ合っています。ジャックボールという白いボールの近くに投げることができたチームが勝つシンプルなルールですが、

駆け引きがあり、作戦をみんなで考えることが重要です。

「小学生の皆さんにパラスポーツを通じて人への思いやりの心を感じてもらえればうれしいです」と、上條人権擁護委員は小学生と一緒に汗を流しながら語ってくれました。「人権教室」は、いじめなど人権に関わる問題について、全国の人権擁護委員が中心になって行われる啓発活動で、印西市でも年間を通して希望する小中学校の児童・生徒を対象に行われています。

この「人権教室でのボッチャ体験会」は、障がいのある人もない人もスポーツを通して交わることで、共に生き



白いボールめがけて

やすい社会の実現を目指し、千葉地方法務局と市内の人権擁護委員が、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会と連携したプログラムです。参加した児童からは「ボッチャは障がいのある人と一緒に楽しくできるなと思いました」との感想もあり、パラスポーツを通じて改めて人権に関して考える機会となりました。

閻市民活動推進課(☎33-4431)、みんなの人権110番(☎0570-003-110)、子どもの人権110番(☎0120-007-110)



作戦が大事です



人権についてのお話も聞きました